

今月の
テーマ

新社会人よ、大志を抱け！

フレッシュな社会人が巷に繰り出すこの季節…。何を思い、どんな志を持って巣立つんだろうか。鳥や動物は、長くても1年もすれば親元から巣立つが、人間の場合は十数年あるいは二十数年間もの間、親からの援助を受け、小・中さらには高校・大学と、なんとも長い間勉強をし続け、やっと社会人となる。鳥や動物の場合、自分で餌を取れるようになったらもう「独り立ち」だ。

しかし、人間社会の場合それはいかない。高度に発達したデジタルな社会で生きていくには、学ぶべきことが少なくない。長年勉強し続けて、晴れて社会人になり免許皆伝か…！“ところがどっこい”そう簡単にはいかない。これまでに学んだことは、生きていくために必要な基礎知識であり、一般的に身に着けておくべき教養を学んだに過ぎないのかもしれない。であれば、社会人になって初めてスタートラインに立ったわけで、ここから本来の学びが始まるのかもしれない。

この記事を書き始めたタイミングで、内閣府が40～64歳の中高年を対象に初めて実施した「引きこもり」に関する調査結果を公表した。それによると、引きこもり状態にある人は全国で61万3000人いると推計されるというものだ。原因は一様ではないにしても、訳あっての「退職」がきっかけだったり、周囲との「人間関係がうまくいかなかった」が上位にあるようだ。

“社会”は「職場・地域・団体・組織」など、様々な人が関わって構成され、“社会人”は学校や家庭から自立し、社会に参加し、その関わりの中で自身の役割や責任を担って生きる人と言える。

“最初が肝心”、新社会人が自ら考えるべきことと、新社会人をどう育てていくかという“社会の責任”と一緒に考えてみよう。

近年、社会になじめず孤立している若者も少なくないようだが、皆さんはいかに感じているだろうか…。“最近の若者”はというフレーズは、いつの世にあっても繰り返されてきた。それを今持ち出す私も年を取ったのか…？先に触れた“びきこもり”的な人数が、かつてない人数に上っていることを考えれば、その原因が一個人の問題ではなく、社会全体の責任として考えなければならない。かつての暮らしは多世代が同居し、地域社会との関わりも多かったし、社会全体が子育てをバツアップしていたように思うが、近年の核家族化や地域コミュニティの不足は、社会教育を阻害してしまったのかもしれない。

なんと、新入社員の3人に1人は3年内に離職しているという。就職戦線で内定を勝ち取り、将来への期待に胸を膨らませて入社したにもかかわらず、なぜ…？離職の中には、さらなる高みを目指しての転職もあるが、その理由は人間関係などのメンタルな部分も少くないようだ。長い間の学校生活はある意味護送船団ではあったが、いったん社会に出るとそこはいかない。権利と同時に果たすべき義務や責任も大きくなる。だとすれば、社会とかかわる自身の立ち位置を、まずは心得ておかなければならぬが、ある意味、免疫を持たない新社会人が慣れない環境の中で、自分の居場所を見つけるのは意外と難しいのかもしれない。

つぶやき
がんちゃんの

生活に何かと役立つ連載コラム

生活知恵袋

せいいかつちえぶくろ

Vol. 119

● 新社会人を育てる



こちら

保険と暮らしの相談センター

“生命保険でこんなお悩みはございませんか！”

- ◆ 保険の見直しを検討している
- ◆ 加入している保険が本当に良いのかわからない
- ◆ 更新時期が近く、保険料がアップしてしまう
- ◆ 将来の子供の教育費が心配

相談は無料!!
納得いくまで相談できます。

お気軽にお問い合わせください。

TLS total life support 株式会社 トータルライフサポート

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

● 営業時間／9:30～18:30

(土・日・祝日は9:30～17:00)

● 定休日／水曜日

TEL 018-827-7611

FAX 018-827-7610

URL <http://tls-akita.co.jp>



詳細はホームページでもご覧いただけます。

であれば、家族をはじめ地域や職場では、新社会人に対する教育を、今から始めるつもりで温かく見守っていかなければならない。

●先人に学ぶ(クラーク博士)

「少年よ、大志を抱け。」

少し古いかなとも思うが、札幌農学校(現在の北海道大学の前身)初代教頭「ワーリアム・スミス・クラーク博士」の有名な言葉だ。札幌市街を展望できる羊ヶ丘展望台に、腕を伸ばした全身像が置かれているのは多くの方が知るところだ。その台座には、「Boys be ambitious!」(少年よ、大志を抱け。)と記されている。しかし、クラーク博士が言っているのはこの一文だけではなく、続文があるのを「存じだらうか?」その全文は次の通りだ。

Boys, be ambitious! Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be.

她れん分かりましたね…。といつ私自身が英語は「I don't know.」ならぬ「あ、ほんどのー」である。なので調べてみたら、少年よ、大志を抱け。それはお金のためではなく、私欲のためでもなく、名声を求める大志のためであつてもならない。人はいかにあるべきか、その道を全うするために、大志を抱け。という意味だ。そしてもう一つ、

「Boys, be ambitious like this old man.」意味は、「少年よ大志を抱け。」の老人の「の」とくなんと意味深い言葉か…。いつかのようになふれる人間を田指したいものだ。あえて、平たく言うと、お金や名譽を追い求める生き方ではなく、夢や希望を持ち謙虚に学び、社会に必要とされる人間にになれ」と言つてゐるのかもしれない。(通訳ではなく私の思いです。)

●先人に学ぶ(ステイード・ジャニアズ)

Stay Hungry. Stay Foolish.
(ストイ・ハングリー、ストイ・フーリッシュ)

「少年よ、大志を抱け。」

少し古いかなとも思うが、札幌農学校(現在の北海道大学の前身)初代教頭「ワーリアム・スミス・クラーク博士」の有名な言葉だ。札幌市街を展望できる羊ヶ丘展望台に、腕を伸ばした全身像が置かれているのは多くの方が知るところだ。その台座には、

「Boys be ambitious!」(少年よ、大志を抱け。)と記されている。しかし、クラーク博士が言っているのはこの一文だけではなく、続文があるのを「存じだらうか?」その全文は

次の通りだ。

Boys, be ambitious! Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be.

她れん分かりましたね…。といつ私自身が英語は「I don't know.」ならぬ「あ、ほんどのー」である。なので調べてみたら、少年よ、大志を抱け。それはお金のためではなく、私欲のためでもなく、名声を求める大志のためであつてもならない。人はいかにあるべきか、その道を全うするために、大志を抱け。という意味だ。そしてもう一つ、

「Boys, be ambitious like this old man.」意味は、「少年よ大志を抱け。」の老人の「の」とくなんと意味深い言葉か…。いつかのようになふれる人間を田指したいものだ。あえて、平たく言うと、お金や名譽を追い求める生き方ではなく、夢や希望を持ち謙虚に学び、社会に必要とされる人間にになれ」と言つてゐるのかもしれない。(通訳ではなく私の思いです。)

これは、iPhoneの生みの親として知られるスティーブ・ジョブズ氏が、2005年に米スタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチの最後に語った有名な言葉だ。「ハングリーであれ、愚か者であれ。」もつと訳せば「貪欲であれ、馬鹿であれ」となるが、だんだん本来の意図から外れてくるようなのでこれくらいにしておくが、何となく分かっていただけのではと思いませんが、ジョブズ氏の真意を読み解くには、是非とも全文を読んで戴きたい。

「Stay Hungry」

最近の若者はハングリー精神が足りないと言われたりもするが、そもそも持ち合わせていないのではなく、目標や目的が見えづらい一気に開花する」ともある。自らの資格取得等にしても、必要性やえ恐懼されればハングリー精神は必ずと芽生えようというのだ。

「Stay Foolish」

「馬鹿であれ、愚か者であれ」を私なりに解釈すると、「つまらないプライドや虚栄心を捨て、自分の信したことを、なりふり構わず突き進め、それが若者の特権であり、感性だ。その先には馬鹿をやつたものにしか見えないものや結果がある筈だ。」といふことではないだろうか。

「Stay Foolish」

●可愛い子には旅をさせへ

最近お付き合いのある方の息子さんが、難関を乗り越え公務員になった4年後、突然に仕事を辞めると言い出した。勿論目指す方向性があつてのことだ。周りの人は、

おまえ馬鹿じゃないかーせっかく入った公務員の道を捨てるとは、なんという勿体ないことを…と口をそろえる。大人の打算的なそれとは違い、その青年はしっかりと育ち、自立し、かつ自律しようとしている。なんと頼もしいことか…。先の結果なんて誰にも分らない。

異論を持つ方もいるかもしないが、私は、なんと遅しく、なんと馬鹿な奴(Stay Foolish)

と言いたい。その青年は今、1年ほどかけて地球を巡る旅に出た。世界を巡り、何を発見し、何を感じてくるのか! 今度会う時の顔を見るのが楽しみだ。こんな「ハングリーで馬鹿」な若者を許容し、枠の中に収まらない青年を支えてあげられる社会であることを見みたい。

●“馬鹿をやる”ことは楽しい

私自身も、これまで数々の馬鹿をやつしてきた。その“馬鹿さ”はある意味無謀なことだ

周りからも呆れられ、叱られながらも、これが止められないのだ。なんてつたて楽しいから…。これが、頭のてっぺんが薄くなつた今になつても止められないから始末が悪い。しかし、自信を持つて言えるのは「馬鹿をやつたことでしか手に入らないことや、見つけられないと多い多い」ということだ。

“常識なんてもそくふえー”そんなものは、みんな人が作ったものだ。世の中には、おかしな常識も存在する。だったら常識を変えたらいい。納得できないルールや規則があつたら、それを変えたふう。既成概念はある意味、敵だ。新しいものを生み出すには、壊すことも大切だ。

Boys, be ambitious. 「少年よ、いや青年も、中年も、熟年も、高年も、老年も大志を抱け。」

Stay Hungry. Stay Foolish.

そして、誰もがもつともつと貪欲に、そして馬鹿をやつてみよう。みんなで渡れば怖くない。



●来月号は

今月もなんだか脱線感のある感じは否めないが、来月号は新社会人に経済感覚を持つてもらいたい思いを並べてみよう。